

**製品名: FBXO7 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10876**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	58kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FBXO7 FBX7
別名	FBXO7 FBX7
遺伝子 ID	25793.0
SwissProt ID	Q9Y3I1
免疫原	アミノ酸配列範囲 371-420 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

**背景**

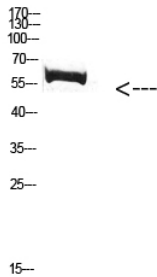
この遺伝子は、約 40 アミノ酸のモチーフである F ボックスを特徴とする F ボックスタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。F ボックスタンパク質は、リン酸化依存性ユビキチン化に機能する SCF (SKP1-cullin-F-box) と呼ばれるユビキチンタンパク

質リガーゼ複合体の4つのサブユニットの1つを構成しています。Fボックスタンパク質は、WD-40ドメインを含むFbws、ロイシンリッチリピートを含むFbls、および異なるタンパク質間相互作用モジュールを含むか、認識可能なモチーフを持たないFbxsの3つのクラスに分類されます。この遺伝子によってコードされるタンパク質はFbxsクラスに属し、造血の調節に役割を果たしている可能性があります。この遺伝子の選択的スプライシングによる転写バリエーションが同定されていますが、そのうちのいくつかのバリエーションについてのみ完全長が決定されています。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患:FBXO7の欠陥はパーキンソン錐体路症候群(PKPS)[MIM:260300]の原因となる可能性がある。PKPSは運動低下を伴う筋固縮性疾患であり、その最も一般的な例はパーキンソン病である。PKPSは、パーキンソン病徴と錐体路関連徴候の両方を呈する稀な疾患である。症状は初期には漠然としている場合もあるが、若年成人期に始まり、比較的ゆっくりと進行し、最終的には重度の運動障害に至ることがある。レボドパに対する反応は通常劇的で、長年にわたって持続する。報告された症例のほとんど(全てではない)は家族性で、親の近親婚と関連しており、常染色体劣性遺伝を示唆している。機能:(SKP1-CUL1-F-boxタンパク質)E3ユビキチン-タンパク質リガーゼ複合体の基質認識成分であり、標的タンパク質のユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を媒介する。BIRC2およびDLGAP5を認識する。経路:タンパク質修飾;タンパク質ユビキチン化。類似性:1つのF-boxドメインを含む。サブユニット:CUL1、SKP1A、RBX1、およびFBXO7から形成されるSCF(SKP1-CUL1-F-box)E3ユビキチン-タンパク質リガーゼ複合体SCF(FBXO7)の一部。C末端のプロリンリッチ領域を介してDLGAP5と相互作用する。BIRC2と相互作用する。、

## 研究分野

-

## 画像データ



1000倍希釈の抗体を用いたマウス腎臓細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は1:20000に希釈した。